

最高裁判所訪問記

9月9日(金)に本学の学生5名、関西大学の学生3名とともに最高裁判所を訪問しました。庁舎見学の後、最高裁判所判事・同調査官による講話とそれに基づく意見交換など充実した時間を過ごしました。



みなさんは、「最高裁判所」、「最高裁判所判事」にどのようなイメージを持っているでしょうか。私は、これまで、敷居の高い場所、近寄りがたい人々という非常に漠然としたイメージを持っていました。しかし、今回、最高裁を訪問したことで、これらのイメージは正確ではなかったことに気付かされました。最高裁の建物、その中に設置されている大法廷、小法廷からは、華やかさや歴史の重みを感じ、講話をいただいた判事や調査官の方々からは、思考の深さや経験の豊富さ、さらには人としての強い魅力を感じました。そして、最高裁判所判事や

調査官の方々と実際にお会いしたことで、これまでに学んだ判例が無機質なだけではなく、どこか人間味のあるものに思えるようになりました。

今回の訪問で得た経験は、今後の学習を進める際に役立つだけでなく、将来法曹となった際にも必ず生きてくるはずです。今回の貴重な経験を忘れずに、社会に求められる法曹となるべく、これからも日々努力を続けていきたいと思っています。



高等司法研究科 2 年次生 宮本 浩河

修学支援事業基金(高等司法研究科)へのご寄付のお願い

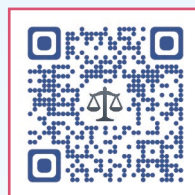
高等司法研究科には独自の給付型奨学金制度があります

高等司法研究科では、学生に対する独自の給付型奨学金を2021年度に1名に対して給付しました。2022年度も奨学金給付を予定しています。この奨学金は、経済的理由により修学が困難な本研究科の学生を支援するため、個人や企業・団体の皆様からのご寄付を基金として運営されています。この取組みを継続し、意欲ある学生を一人でも多く社会に送り出すため、皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

ご寄付の方法

クレジットカード・銀行振込・コンビニ払い
いずれもこちらからお手続きいただけます。

* 開いたページで **このプロジェクトに寄付をする** をクリックしていただくと、
寄付目的と支援先がすでに入力されており、スムーズです。
ご寄付の金額は自由に設定いただけます。



【お問い合わせ】

大阪大学大学院高等司法研究科
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-6
TEL : 06-6850-5973
HPアドレス <http://www.lawschool.osaka-u.ac.jp/>

【発行元】

大阪大学大学院高等司法研究科
発行:2022年11月1日



News Letter

【ニュースレター】

大阪大学大学院高等司法研究科
■ 法科大学院 ■

No. 24
2022



研究科長からのご挨拶

「法曹養成のための新たな試み」 高等司法研究科長 松本 和彦



高等司法研究科秋季修了式より

受け入れる仕組みがありました。2019年からは「グローバル法曹」枠を設けるなど、さらに間口を広げ、入学者の多様性確保を図っています。昨年度からは法曹コース出身の法学部生を対象にした特別選抜をスタートさせました。法曹コースについては、別欄での報告が予定されているため、ここでの説明は控えませんが、こうした新しい試みを積み重ね、研究科の魅力を内外にアピールして、法科大学院制度と本研究科に対する信頼感を高めていったことが、今、評価されているのだと思います。本研究科で学んだ多様な学生が、卒業後、社会で活躍してくれることを大いに期待しています。

法曹コースと法科大学院

一昨年、大阪大学法学部に法曹コースが設置され、この4月に本研究科はその第1期生を迎え入れました。法曹コースは、裁判官・検察官・弁護士を目指して、法学部の初期の段階からアクセルを強く踏み法学の勉強をしたいという人のためのコースです。法学部1・2年次の春休みにコースへの登録申請をもらい、新学期からコースが始まります。定員は、2年次約30名、3年次約20名、4年次若干名です。

法曹コースの授業は、通常の法学部生に向けて開講されるものと同じですが、コースを修了するためには、多くの必修科目について良い成績で単位を修得する必要があります(詳しくは大阪大学法学部ウェブサイト参照)。法曹コースを修了すると、法律科目の論述試験を課さない特別選抜(法曹

コース5年一貫型)の入試を経て、法学既修者として本研究科に進学することができます。

さらに、早期卒業制度を併用することで、大学入学から5年間で司法試験に合格することが可能になります。しかも、令和5年度からは、法科大学院の最終学年に在学中に司法試験を受験することができるようになるため、大学入学から最短で6年後には法曹資格を得ることができます。

法学部で開講されている多くの授業の中から、法曹になるためにどの授業をどの順序で履修すればよいのか、どのような成績を修める必要があるのかについて羅針盤がほしいという法学部生、早く法曹になりたいという法学部生にとって、法曹コースは有力な選択肢です。

アドミッション委員会委員長 松井 和彦